

閉会の辞 － 原子力の明日 －

2019年 4月25日

日本原子力学会 副会長
岡嶋 成晃

1

1 F 事故後の対応

- ▶ 復興の現状と見通し、今後の課題

エネルギーとしての原子力利用

- ▶ 大前提：安全性の確保 → 安全性向上への不断の努力
安全の価値を技術論に基づいて説明
- ▶ 社会的信頼の再獲得
- ▶ 安定供給のためのベースロード電源
- ▶ 将来に向けて原子力の価値と安全の価値を高める
 - ▶ 放射性廃棄物の処理・処分
 - ▶ バックエンド事業の現状と進展に必要な研究開発課題
 - ▶ 科学技術分野が多岐にわたる処分技術は、処分全体としての信頼できる技術とするために「連携・統合」が必要 → 次世代の原子力利用につなぐ基盤の構築
 - ▶ 地球環境問題での原子力の役割
 - ▶ 脱炭素化のための技術選択肢
 - ▶ 再生可能エネルギーとの共存に向けた技術開発

2

暮らしに役立つ原子力技術・放射線利用

- ▶ 医療分野における診断や治療
 - ▶ 現放射線医学において、「不随意的体動」などの古典的課題解決への挑戦
- ▶ 計測分野における極微小な物理量の計測
 - ▶ 今後、医療、ヘルスケア、社会インフラ等への応用を期待
- ▶ 低線量率放射線影響の解明
 - ▶ 低線量率を模擬した環境では癌の起源となる照射細胞は増殖しにくい
→ 線量率効果機構の仮説の成立性
- ▶ 宇宙探査におけるエネルギー源
 - ▶ 長期安定電力供給源としての、新たな原子力電池と宇宙用原子炉

新たな分野への拡がりが見えだし、芽が出てきた。

3

明日へと原子力を進めるに当たって

- ▶ 原子力の信頼回復と新たな未来を切り拓く
「再構築期」を目指す（会長講演資料から）
 - ① 福島復興への寄与及び原子力の信頼回復への貢献
 - ② 原子力や放射線の学術・技術進展による環境保全や社会発展への寄与
 - ③ 人材育成／研鑽の場の提供
- ▶ すでに、各項目への取り組みは開始されている
 - ▶ 福島復興への寄与：組織横断的活動（廃炉検討委員会、福島特別プロジェクト、ANFURD）
 - ▶ 信頼回復：原子力安全部会などによる安全性向上への不断の取組み、シニアネットワークによる若手との対話 など

4

最後に

▶ 60周年は、「明日へと原子力を進める」ために何に取り組むか、会員一人一人が、福島事故以降の社会の状況を踏まえつつ、今一度考える節目

▶ 「原子力の信頼回復と新たな未来を切り拓く」にあたっての理念

「公衆の安全をすべてに優先させて、原子力および放射線の平和利用に関する学術および技術の進歩をはかり、その成果の活用と普及を進め、もって環境の保全と社会の発展に寄与すること」
(行動指針から)

1. 信頼醸成への貢献
2. 社会に役立つ原子力技術の追求
3. 国際的な活動